

会 議 録

1 会議名

平成 28 年度第 4 回津有区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 地域活動支援事業の振り返りについて（公開）

(2) 自主的審議につなげるための津有区の現状分析について（公開）

①自主的審議のこれまでの経緯について

②今年度の方針について

3 開催日時

平成 28 年 7 月 25 日（月）午後 6 時 30 分から午後 8 時 25 分まで

4 開催場所

ファームセンター 農事研修室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委 員：江平幸雄、太田政雄、小熊勇治、塩坪貞雄（副会長）、清水昇一、中嶋博
服部香代子、古川昭作、保坂和彦、丸山常夫、宮越隆一、山管節子
吉崎則夫（会長）、渡部稔

・事務局：中部まちづくりセンター 山田センター長、野口係長、小林主事

8 発言の内容（要旨）

【小林主事】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、成立を報告

【吉崎会長】

・挨拶

【小林主事】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【吉崎会長】

- ・会議録の確認者：塩坪副会長

3議題「(1) 地域活動支援事業の振り返りについて」に入る。今年度の審査や採択の際に感じたことをフリートーク形式で話していただきたい。フリートークでいただいた意見は、来年度以降の津有区の採択方針や審査方法等を決める際に活かしていきたい。

— フリートーク開始 —

○ 6時40分から7時20分までの40分間

○ フリートークの概要は下記のとおり

- ・津有区では1次募集で配分額を上回り、配分額と同額の採択額となったため2次募集は行わないが、新聞等で他の区の状況を見ると、1次募集で残額が多く2次募集を行う区が多い。2次募集となると、同じ作業を繰り返すことになり自主的審議に使える時間が削られてしまう。津有区では、今年度までは3年計画で補助希望額の大きい事業があったこともあり、1次募集で配分額を使い切っているが、来年度以降はその継続事業がなくなるため2次募集となる可能性が高いと考えている。2次募集を避けるためにも各団体へ提案を促すなど工夫が必要だと思う。
- ・共通審査基準の配点について、津有区では「加算」を付けているが、他の区では付けていないところが多い。この加算について、来年度は「本当に必要なのか」や「その配分」等の見直しが必要だと思う。
- ・今年度は委員になってすぐに地域活動支援事業の審査や採択の作業が始まり、地域協議会の役割や立場がよく分からないままの状態だったので、とても難しかった。可能であれば今年度の審査と採択は前期の委員が行う方が良かったと感じた。
- ・前期の委員が決めた採択方針や審査方法だったので、それを理解するのに時間がかかってしまった。審査にもう少し時間的な余裕が欲しかった。
- ・採択の結果を地域協議会だよりで津有区の皆さんへお伝えするのは良いことだが、これだと結果しか伝わらないため、我々がどのような協議をしてこの採択結果に至ったのかも住民の皆さんに伝わるような方法があるとよいと思う。
- ・団体の皆さんの立場になると、採択が決定しないと安心して事業に着手できないと

思うので、採択の時期はこれ以上延ばせないと思う。今回は委員の改選があったため、私たちは審査に苦労したが、来年度からはもう少し早く採択結果を出していきたいと思う。

- 各町内からの提案も必要であるが、津有北部地区と津有南部地区が一体になるような提案が増えると、もっと良くなると思う。
- 他の区で、提案件数が少なく予算も余っている所がいくつかあるが、これらの区でも地域活動団体は沢山あるはずだ。であれば、募集する事業に制限があったりするのではないかと思う。そうすると、津有区も今は募集するテーマも多く、沢山の団体から提案していただいているが、見直したために提案が減ってしまい、予算が余ってしまうようなことになっては、地域の活性化に繋がらないと思う。来年度の採択方針や審査方法を協議する際には注意が必要ではないか。
- 今回のヒアリングの目的は「提案書では分からない疑問点の解消」であるが、ヒアリングの際の提案者の意気込みや提案事業の理解度に差があったと感じる。採点票を記入する際にどうしてもヒアリングで説得力のあった団体が記憶に残ってしまった。来年度以降はヒアリングのあり方や方法も見直したいと思う。
- 今までヒアリングは「委員の疑問点の解消」を目的としていたので、来年度から「ヒアリングも審査の対象」となると提案団体の皆さんも大変だと思う。もし、そうするのであれば説明会や提案書の受付時等で事前にしっかりと説明してあげることが必要だと思う。
- 採点票を自宅に持ち帰って一人で採点していると、どうしても自分の主観が強くなってしまう。例えば、ヒアリングの後に委員全員で意見交換をしながら採点票を記入するなど、採点のやり方を工夫できないか。
- 提案書の書き方が団体によって違いがあり、欲しい情報が記載されていない団体や、きちんと伝わる団体など様々だった。提案書の情報量が統一されていると読みやすいと思う。また、提案団体のためにも提案書をもう少し簡素化できないか。
- 今回は予算の関係もあり不採択となった提案もあったが、その提案も地域活動支援事業の趣旨に合致していなかった訳ではないので、もしその団体がどうしても必要だと考えるのであれば、来年度にもう一度提案していただきたい。
- ヒアリングの時間は、提案者からの説明が5分、委員からの質疑応答が5分であったが、ほぼ時間通りに進み、スムーズであったと思う。提案の件数にもよるが、来

年度以降も10分程度でよいと思う。

【吉崎会長】

時間が過ぎたので、地域活動支援事業の振り返りは以上で終わるが、委員の皆さんからいただいた意見は、正副会長と事務局でまとめ、来年度の地域活動支援事業の採択方針や審査方法を協議する際の資料として活かしていきたいと思う。

次に「(2) 自主的審議につなげるための津有区の現状分析について」に入る。「①自主的審議のこれまでの経緯について」事務局に説明を求める。

【小林主事】

- ・資料により説明

【吉崎会長】

今の説明について質疑を求める。

【太田委員】

過去に視察研修を行っているが、視察先は地域協議会で決めるのか。

【吉崎会長】

津有区ではこれまで、自主的審議の参考になりそうな視察先の候補を事務局からいくつか挙げていただき、その中から委員が選んでいるようだ。

【吉崎会長】

次に「②今後の方針について」協議する。先日、事務局と正副会長で打ち合わせを行い、これまでの経過や反省点を踏まえて、今年度の地域協議会の進め方について話した。その結果をスケジュール案にまとめたものが資料No,4である。こちらをご覧ください。

はじめに、事務局からスケジュール案について説明していただき、その後で質疑等も含めてフリートーク形式で、今年度の方針について意見交換を行いたい。

【小林主事】

- ・資料により説明

【吉崎会長】

それでは、ここからはフリートーク形式で委員の皆さんと意見交換を行う。事務局から説明にあったスケジュール案に対する意見でもよいし、地域協議会の中でこんなことをやってみたいという提案でもよい。先ほどの地域活動支援事業に関するフリートークと同様に、本日の会議では結論を出す必要はないので、あまり難しく考えずに、

皆さんの想いや考えを話していただきたい。

なお、次回以降の会議では、今回のフリートークの内容をスケジュール案に反映させて、より具体化していきたいと考えている。

— フリートーク開始 —

○ 7時40分から8時20分までの40分間

○ フリートークの概要は下記のとおり

- ・町内会長と地域協議会の役割の違いが分かり難いので勉強したい。お互いの立場や役割を理解した上で、協力していくことが大切だと思う。
- ・自主的審議における津有区の課題の洗い出しについては、町内会長と意見交換を行うことも大切であるが、地域活動の実施団体とも意見交換が必要ではないか。実際に地域活動をしてみて感じている課題があると思う。また、町内会長とは違った視点で課題を感じている部分もあると思う。
- ・前回の委員の方々が実施してきたように、まずは町内会長協議会の皆さんと意見交換を行い、地域の現状や課題を知る必要があると思う。
- ・視察研修について、今年度は津有区の現状把握ができていないので、県外まで視察研修に行く必要はないと思う。まずは、津有区の課題を把握し、その解決方法の一つとしてよい事例があれば来年度以降に視察研修を実施すればよいと思う。
- ・町内会や北部振興会でも、毎年のように市長へ要望書を提出していると思う。地域協議会が提出できる意見書との違いが分からない。
- ・津有区で活動する地域団体について、まだ知らない団体もあると思うので、一覧表のようなものがあると助かる。意見交換をする際の案内を出すために必要だし、中には地域活動支援事業を知らない団体もあると思うので、周知する必要もある。
- ・前期に引き続き、「少子高齢化に対する対策」を検討する必要があるのではないかと。津有区では、人口が増えている町内もあると聞いている。なので、津有区全体のデータに加え、町内ごとの総人口や、世帯数、年代別の人口等の増減が分かる資料があればよいと思う。
- ・私たちの時代は、長男は必ず地元に戻って家を継ぐものだと思っていたが、今はそうではないようだ。進学等の理由で一度津有区を離れた子どもたちが、就職先として地元を選んでくれるようになればよいと思っている。
- ・津有区は北部地区と南部地区に分かれているため、全体で関わるのが少ない。地

域協議会は津有区全体を対象とした組織なので、北部地区と南部地区の住民が関わる場をつくれればもっと地域の連帯感が生まれると思う。

- ・大きな団地があれば人口は増えるが、津有区の平成団地は団地ができてから20年以上が経ち、これから急激に人口は増えないだろうと思う。

【吉崎会長】

時間になったので、フリートークはここまでとする。

次に、次回の会議日程の調整を行う。

— 日程調整 —

- ・次回の地域協議会：9月6日（火）午後6時30分から
- ・会場：ファームセンター
- ・事務局へ諸連絡を求める

【山田センター長】

- ・地域協議会委員の勤務先への協力要請について説明

【吉崎会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-5111（内線 1449、1547）

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。